



人間は、かぶれる

にんげん

野田 秀樹

のだ ひでき

近頃、海外の旅はヨーロッパ、アジアばかりで、とんとアメリカへ行くことがない。かれこれ十年はアメリカへ行っていない。劇団をやっていた頃のニューヨーク公演が最後になるのか、それさえ定かではない。アメリカの記憶が臃だ。おかげで、私はアメリカの呪縛から解かれた気がする。「トムとジェリー」を見て育ち、知らずBGMに流れているビッグバンドジャズを聞いて育った世代だ。アメリカにかぶれていないわけはない。

そのアメリカかぶれたるや、近頃の日本はとみにひどくなっていると思う。世界の情報は日々こんなにも発信されているのに、日本人が受け取る情報は実に限られている。アメリカが海外(=日本の外)そのものだと思っている。私にしても、ロンドンに暮らしてアメリカの情報を遮断されるまでは、日本の海外はほぼアメリカだった。だがどうやら、自分は思っていた以上にアメリカかぶれをしていることを知り、アメリカの独りよがりな鼻についてくるに連れて同時に、今度はヨーロッパやタイにかぶれている自分が分かってくる。

おそらく私がロンドンに住むことがなく、タイの役者達と芝居を作ることがなければ、そうはならなかっただろう。人はそういうものだ。自分の暮らしたとこ

ろ、接した文化にだけかぶれるものだ。ロンドンで会った白タクの運転ちゃんが言っていた。彼は、アフリカで生まれすぐにイギリスへやってきた。だから「すこしも、アフリカに帰りたいなんて思わない。懐かしくもない。だって、知らないんだから。お客さん、アフリカに帰りたいなんて思わないだろう?」だって、アフリカを知らないから」

人間は、自分が何かにかぶれているに過ぎないのだと気がつきさえすれば、他の文化や宗教や思想を余裕を持って見ることが出来るようになる。偏狭な心で、かぶれたままの人間のコトバは、もっともらしく聞こえるが胡散臭い。昔の旅人の旅行記など殆どそうだ。当てになつたもんじゃない。僅かな時間滞在し、そこで偶々見聞きし食ったり呑んだりしたもので、その文化の全てを語ってしまうのだから。つまり、短期間集中かぶれ講座のようなものだ。そんなもので、そのご当地の文化を語られてはたままったものではない。今でもいるではないか、たった十日か一月、或いは一年、どこかに滞在しただけで、その全てを知っているかのように語る輩が。感想を述べるのは良い。だが、判断するのは良くない。旅をすることで、人はその土地をよく理解できるなどとほざくが、本当は、旅によってその土地をまず誤解するのだ。なにせ人間は、すぐにかぶれてしまうのだから。

(劇作家、演出家、役者)

げきさつが えんしゅつが やくしゃ

表紙エッセイ

人間は、かぶれる

野田秀樹 (劇作家、演出家、役者)

Essay

Caught, Watched and Realized

Hideki Noda (Playwriter, Producer, Actor)

離任のごあいさつ

小松諄悦 (国際交流基金日本語国際センター副所長)

Address for Resignation

KOMATSU Junetsu (Deputy Director of the Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa)

教育実践レポート⑩観光・ガイドコース

観光業で役立つ日本語力の習得をめざして

オンソング ローズマリー ケルボ、長崎清美

(ケニア・ケニアウタリカレッジ 語学部講師)

Japanese Language Teaching Around the World ⑩

An Attempt to Get Japanese Language Useful for the Tourism
ONSONGO Rosemary Kerubo, NAGASAKI Kiyomi (Lecturer, Kenya Utalii College Languages Department)

国際交流基金日本語国際センター

ホームページの紹介

国際交流基金日本語国際センター情報交流課

The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa

The Renewal of Homepage

中・上級 新聞・雑誌から見る現代日本

第8回 「感情を持つロボット」

本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。

Intermediate and advanced Aspect of Japan Today in the Newspaper and Magazine

Robots with the human emotions

(This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)

初・中級 写真で見る日本人の生活

お茶

日本語・日本語教育を研究する

第16回 日本語の誤用研究

市川保子 (東京大学留学生センター教授)

Beginning and intermediate Japanese Life As Seen in Photographs

Green Tea

Research on the Japanese Language & the Japanese Language Education

Error Analysis of Japanese Language

Yasuko Ichikawa (Professor, International Center, University of Tokyo)

初・中級 授業のヒント

会話を進める

本ばこ (新刊教材・図書紹介)

海外日本語教育Q&A

ニュース・編集部から

Beginning and intermediate Ideas for Japanese-Language Classrooms

Proceeding the Conversation

Book Shelf : Introduction of New Titles

Overseas Japanese-Language Education Q&A

Miscellaneous News・From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

離任のごあいさつ

国際交流基金

日本語国際センター副所長

小松 諄悦 (こまつ じゅんえつ)



このたびアジアセンターに異動いたしました。1年2か月という短い期間の日本語国際センター勤務ではございましたが、副所長という大任を無事つとめることができましたのは、平素からセンターの活動をご支援いただいた皆様方のご指導、ご協力のおかげです。こころからお礼もうしあげます。

海外における日本語教育はこれまで順調に拡充してきました。学習者数はこの10年の間に3倍ちかく増加しています。この傾向はこれからもつづいていくこととおもいます。とくにしばらくは低年齢層へのひろがりが増著になっていくでしょう。中国では小学校での日本語教育がひろがり、韓国では中学校で日本語教育がとりいれられました。日本語国際センターとしても、学習者の低年齢化に対応するあたらしい事業をおこなってきています。初中等教育教師研修や低年齢層むけのあたらしい視聴覚教材の開発などです。

数の増加には質がともなわなければなりません。2001年に1年で修士号を取得できる現職日本語教師のためのプロ

グラムをはじめました。9名の人がこの秋から研修(授業)をうけます。将来の日本語教育の中核となることが期待されています。また、センターでうける研修がクレジットとして認定される道もひらけてきました。2001年度の米加英の初中等研修がUCLAの単位を取得できることになったのです。今後は、類似のクレジット制度をもっている国でも認定されるよう努力していくつもりです。

情報提供、情報の交流もセンターの主要な活動です。ホームページを充実させてきています。教材素材の提供や世界の日本語教育状況などの情報掲載とともに、日本語教師のかたがたの情報交流の場として掲示板を新設しました。

在任した1年2か月というほんとうにみじかいあいだにも、日本語国際センターの活動はおおきく飛躍してきています。個人的には多くのことをやりのこしてきた思いがつつよいのですが、あらためてこれまでのご指導に感謝しますとともに、これからのセンターの活動にたいするひきつづいてのご支援、ご指導をお願いいたします。

表紙エッセイプロフィール

野田秀樹(のだ ひでき)

55年、長崎県生まれ。76年、東京大学在学中に劇団夢の遊眠社を結成。83年、「野獣降臨」で第27回岸田戯曲賞受賞。92年、劇団解散後、1年間の英国留学を経て、93年、企画製作会社NODA・MAP設立。以後プロデュース公演形式で精力的な演劇活動を展開。

観光業で役立つ 日本語力の習得をめざして

ケニア ケニアウタリーカレッジ 語学部

講師 **オンソゴ ローズマリー ケルボ**
長崎清美 青年海外協力隊員

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。



デモレストランでお客様役の学生を相手にサービスを勉強中

1 はじめに

ケニアウタリーカレッジは、観光業に従事する人材を育成するための観光省直轄の観光専門学校である。カレッジには、ホテルマネジメント、フロントオフィス、ツアーガイド、トラベルオペレーション、フードプロダクション、サービス、ハウスキーピングなど、ホテル産業と観光業に関するさまざまなコースが設置されている。カレッジにはホテルが併設されており、ホテルコースの学生は教室での学習と同時に、実務に則した学習も行えるようになっている。

観光に外貨収入を頼っているケニアにおいて、外国語

のできるホテルマンやツアーガイドなどの育成は大変重要である。カレッジには、フランス語、ドイツ語、イタリア語、そして、日本語のコースがあり、全学生に対する選択必修科目になっている。日本語コースは、日本人観光客の増加に伴い、1993年、青年海外協力隊員の派遣によって導入された。現在は、約100名の学生が日本語を学習している。

2 コースの概要とカリキュラム

コースは、「初級」、「中級」、「上級」の3つがあり、それぞれ160時間が課せられている。各コースともに、2時間の授業が週4日あり、2ターム(1ターム10週間)

で1コースを終了し、6ターム(約1年半)ですべてのコースを終えることになっている。

各コースには、便宜上、「初級」、「中級」、「上級」の名前が付けられているが、初級が「みんなの日本語Ⅰ」13課終了程度、中級が「みんなの日本語Ⅰ」終了程度、上級が「みんなの日本語Ⅱ」レベルである。

学生は、卒業前に、ホテルや旅行会社での3ヶ月から6ヶ月の実習に出ていく。実習先、また卒業後、実際の職場で役立つ日本語力の習得が当コースの到達目標であり、授業では、メインテキストに沿った基本的な文法の指導にとどまらず、こうした実務的なスキルを身に付けさせることに力を入れている。

3 教師の配置、連携のあり方

現在、ケニア人講師2名と日本人講師1名(青年海外協力隊員)が6コースを担当している。ケニア人講師のひとり、1996年9月から9ヶ月、国際交流基金の海外日本語教師長期研修に参加している。日本から遠く離れたケニアでは、残念ながらなかなか「日本」に触れられるチャンスがないのが現状である。もうひとりの講師も、こうしたプログラムに参加して、日本語の教え方だけでなく、「日本」に触れるチャンスを持ちたいと願っている。

3人の講師は、それぞれのクラスを担当しており、特にチームティーチングの形はとっていない。しかし、空いている時間を利用して、他の講師のクラスで、会話練習やロールプレイの相手をしたりしている。実際の場面を考えた会話練習では、状況をしっかり示したモデル会話を見せることが重要だが、教師の一人二役には限界があるので、他の講師と協力して行うようにしている。

また、ケニア人講師と日本人講師は、お互いの得意分野を生かして協力するよう心がけている。



授業風景。学生の人数はコースによってさまざま

日本人講師は、月何回か日本文化の紹介をケニア人講師のクラスで行っている。日本について知ることは、日本に対する興味を高め、ひいては日本語への学習意欲を高めるのに役立つと考えている。また、将来、日本人に接したとき、こうした知識がスモールトークに生かせるのではないだろうか。

ケニア人講師は、自分自身が学生の立場で日本語を学習してきたという経験があり、この経験をもとに、ケニア人学習者にとって日本語の何が難しいのか、どうして間違いをおかすのかを日本人講師にアドバイスしている。ケニアの公用語は、スワヒリ語と英語であるが、ケニア人はそれ以外にそれぞれの出身地のことばを話している。この母語は、他の言語(スワヒリ語や英語)に大いに影響を与えている。こうした知識をケニア人講師から得ることは、日本人講師が授業を進めるうえで大いに役立っている。

また、他言語の講師からも得るところは多い。専門会話の指導においては、教材、教え方などのアイデアを交換して、良いものはどんどん取り入れるようにしている。

4 使用教材

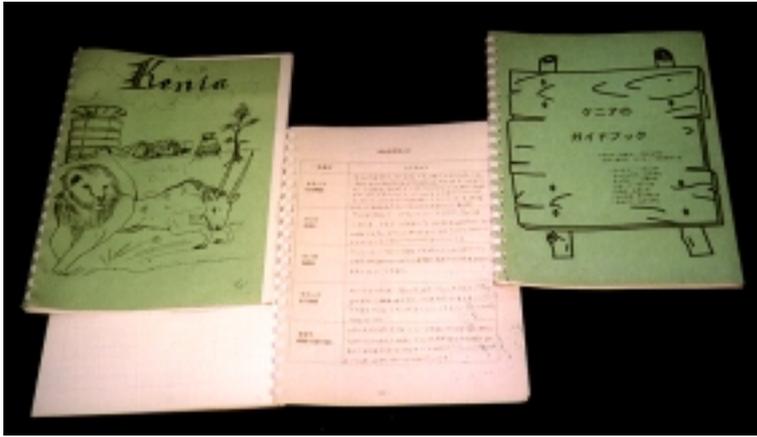
基本文法の指導には、「みんなの日本語」Ⅰ、Ⅱ(スリーエーネットワーク)を使用している。以前、使用していた「新日本語の基礎」Ⅰ、Ⅱ(スリーエーネットワーク)に比べると、場面設定が一般化されているが、ドリルのキューや会話文などには、カレッジの学生とは縁のなさそうなものも多い。学生の負担を軽くするためにも、なるべく場面設定などに工夫をして、実際に彼らが遭遇しそうな会話を作成して練習するようにしている。

専門日本語については、既成教材になかなか適当なものがないため、目標言語に合わせて講師が既成教材に手を加えたり、オリジナルの教材を作成して使用している。

5 専門日本語

基本的な文法の指導がある程度進んだところで、専門日本語の指導を始めている。

学生に必要なのは、実際に仕事の場で生かせる日本語である。机上の学習だけにならないように、実際に宿泊カードに記入させたり、鍵の受け渡しをするなど、体の動きを伴った練習を心がけている。カレッジの学生は勉強熱心なので、テストだと言えば長い会話文もしっかり暗記してくるが、実際に状況を理解して暗記しているのか疑問に思うことがある。動きを伴った練習によっ



ツーリズムコースの学生が作成したケニアのガイドブック

で、発話の意味を体に染み込ませて欲しいと思っている。

また、接客業という性質上、日本人に悪印象を与えないような立ち方、お辞儀の仕方、ジェスチャーなどの非言語行動も折に触れ指導するようにしている。

ほかには、学生が他の科目で勉強した知識を日本語のクラスで生かしたクラス活動も行っている。たとえば、ツーリズムの学生はコースの総まとめとして、ケニア紹介のガイドブックを作成している。ケニアの歴史や文化、国立公園の案内や動物の特性を彼らのレベルの日本語でまとめる作業は決して簡単なものではないが、オリジナルのガイドブックが出来上がったときの達成感はその苦労を忘れさせるようだ。

6 今後の課題

一番の課題は、学習者にいかに多くの日本語環境を与えていくかであると思う。これは、海外の日本語教育機関が共通に抱える問題であると思う。残念ながら、現状

ではほとんどの学生が、教師の日本語しか接することのないまま卒業してしまう。実習先で日本人観光客に接するチャンスがあっても、ただどしどしい日本語に対して英語での説明を要求され、すっかり自信を失ってしまった学生もいる。今後は、ナイロビの日本人会や日本大使館の広報文化センター (Japan Information & Culture Centre) にも協力を求め、教室以外で日本語を使う機会を増やしていきたい。また、カレッジにも「日本語クラブ」のような、気軽に参加できるサークルを作り、カレッジ内の日本語熱を高めていきたいと思っている。

現在、日本語セクションには日本人講師がいるが、カレッジ側は、将来的には他の言語セクションのようにケニア人講師だけで日本語コースが運営できるようにしていきたいと考えている。そのためにも、このカレッジのニーズに合った教材を充実させることが重要である。また、専門会話のテキストに付随した視聴覚教材も作成したいと思っている。前述のとおり、機能的な会話には、会話が行われる状況をよく把握することが大切である。ビデオ教材は学習の大きな助けになると思う。

ウタリーカレッジにおける日本語教育に求められているのは、観光業で役立つ日本語力を身に付けさせることである。学生に必要な日本語を効率よく教えるためにも、語学教師も観光業について知識を持つておく必要があると思う。将来、学生がどんな状況に出会うのか、そこではどんな会話が繰り返されるのかを他の部門の協力も得てよく把握し、ウタリーカレッジならではの観光業の日本語コースを作り上げていきたいと思っている。



トレーニング・レセプションで勉強中のフロントオフィスコースの学生

ホームページの紹介

しょうかい

日本語ページ : <http://www.jpjf.go.jp/j/urawa/>

英語ページ : <http://www.jpjf.go.jp/e/urawa/>

国際交流基金日本語国際センター情報交流課

こくさいこうりゅうききん にほんごこくさい じょうほうこうりゅうか

国際交流基金日本語国際センターのホームページは、2000年11月に大幅なリニューアルを行いました。ここでは、最近新設したページを中心にをご紹介します。



>English

最終更新日2001.05.01

What's New!

更新情報



▲国際交流基金のHPへ

日本語国際センター案内

所長あいさつ、沿革・目的、事業、施設・アクセス

公募事業案内

公募事業案内

日本語教師の研修

研修事業紹介

日本語の教え方・リソース

講座開設マニュアル、制作教材、助成教材、「教科書を作ろう」、「写真パネルバンク」

世界の日本語教育

日本語教育国別情報、機関調査、海外日本語教育機関検索、調査研究部会、海外日本語教育掲示板

出版物

「紀要」、「世界の日本語教育」日本語教育論集・日本語教育事情報告編、「日本語教育通信」

図書館

図書館案内、所蔵日本語教科書・教材データベース、所蔵雑誌・紀要目次ページデータベース

職員・専任講師のページ

所長のページ、専任講師のページ

リンク集

NEWS

- ・当センターの住所表示が変わりました。
新住所 〒336-0002 埼玉県さいたま市北浦和5-6-36
- ・「日本語教育事情報告編・世界の日本語教育」第6号を発行しました。
- ・図書館所蔵の日本語教科書・教材情報を検索できる「所蔵日本語教科書・教材データベース」の公開を開始しました。
- ・「海外日本語教育機関検索」を公開しました。海外の日本語教育機関の情報を、国・地域別、教育段階別などで検索できます。
- ・「教科書を作ろう」を全文公開しました。内容をダウンロードできます。
- ・「海外日本語教育掲示板」を開設しました。情報収集・発信にご利用下さい。
- ・日本語教育論集「世界の日本語教育」第12号の投稿を募集しています。
締切り：2001年7月31日

このホームページに関するご意見は、こちらをお願いします。

urawa@jpf.go.jp

Copyright 2000 The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa.
No reproduction or republication without written permission.

1 『教科書を作ろう』

『教科書を作ろう』は、中等教育段階で初級日本語を勉強する学習者向けの教科書や教材を作るための素材集です。1999年春の発刊以来、冊子及びCD ROMの形でお配りして来ましたが、この度、ホームページに「せつめい編」「れんしゅう編」の全文を掲載いたしました。

PDFファイルで閲覧することも可能ですし、使いたい部分のデータをダウンロードすることもできます。翻訳を加えたり、例文の語彙を差し替えたり、図、イラストを加工したりと、これまで以上に幅広く利用していただけると期待しています。

冊子での配布も引き続き行っていますので、まだお持ちでない方は、この機会に是非、お申込み下さい。

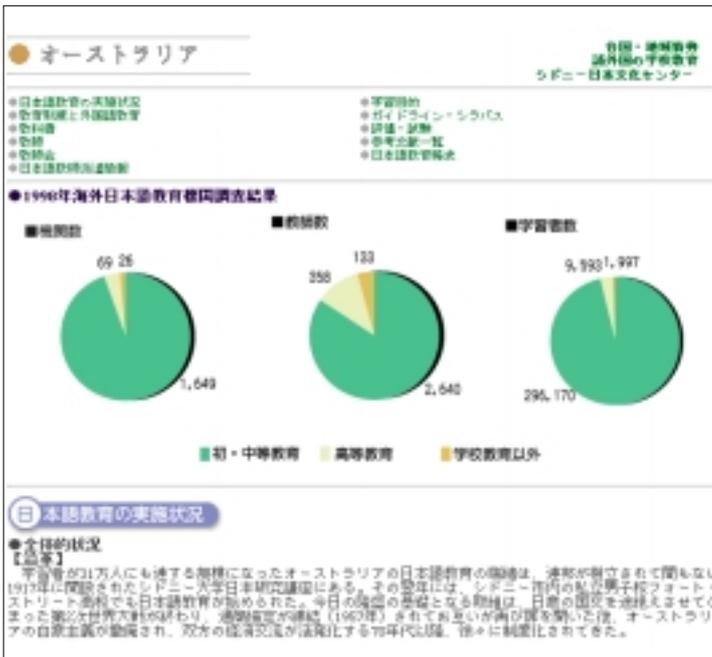
なお、CD ROMの配布は当面打ち切りとなりましたので、テキスト及び画像データはホームページからのダウンロードをお願いいたします。

また、6月には『教科書を作ろう』に続くものとして、初級日本語素材集『続 教科書を作ろう』を発行予定です。お楽しみに。

世界の日本語教育

2.日本語教育国別情報

海外の国別日本語教育事情に加え、「教師会・学会一覧」「シラバス・ガイドライン一覧」「参考文献」情報があります。1999年に開設し、毎年更新調査を実施しています。



4-1 何番ですか

活動 聞いたことばの絵を選んで、絵の番号で答える。

かたち

時間 ●○○

せつめい編

会話の技術

準備するもの
＜使うことば＞の行動を表わす絵

使うことば

遠くまで行く、顔を洗う、シャワーを浴びる、勉強(する)、する、手紙を書く、新聞を読む、(テレビ)を見る、(音楽)を聞く、(学校へ行く/来る)、(うちへ帰る)、(起きる)、(寝る)、ごはんを(食べる)、(コーヒー)を飲む

手順

- 教師は＜使うことば＞の絵を黒板にはり、絵に番号をつける。一度に使う絵は5枚以下とする。
- 教師はその年の1つを言う。
- 学習者はその番号を指で示す。

3 海外日本語教育機関ディレクトリ

世界の日本語教育機関の一覧(機関名、住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス、機関の設置主体、教育段階)です。国や地域、機関名、住所から検索できます。このディレクトリは、1998年に実施した「海外日本語教育機関調査」結果に基づいています。機関名や住所に変更があれば、ncjoho@jpf.go.jpまでご連絡下さい。

随時更新する予定ですので、ご協力お願いします。

国内地域	機関名	日本語教育部門名	設置主体	機関の種別
オーストラリア	南山大学校 University of Nishan	日語文学科 Department of Japanese Language and Literature	民間機関	高等
	南山大学校 University of Nishan	大卒級日本語教育専攻	民間機関	高等
オーストラリア	安南大学校 Annam University		民間機関	高等
オーストラリア	アボラ大学校 Avalon University		民間機関	高等
オーストラリア	Catalpa大学校 The Catalpa University of Nara	外国語学部日本語専攻 School of Foreign Languages, Japanese Language	民間機関	高等

4 海外日本語教育掲示板

かいがい にほんごきょういくけいじばん

海外の日本語教育についての情報交換のために、掲示板を新設しました。以下の5つのカテゴリに関する情報でしたら、誰でも投稿できます。英語での投稿もできます。

- ① 学会・教師会情報（設立やシンポジウムのお知らせ等）
- ② 投稿案内
- ③ 教材出版情報
- ④ 日本語教師募集案内
- ⑤ 研修コースのお知らせ

図書館
としょかん

5 図書館所蔵雑誌・ 紀要目次ページデータベース

としょかんしよざうざっし
きようもくじ

当センター図書館に所蔵されている雑誌・紀要の目次ページのデータベース（PDFファイル）です。雑誌・紀要のタイトルから検索できます。

日本語教育センター図書館の所蔵する雑誌・紀要の目次ページをPDFファイルで閲覧することができます。（一部の雑誌・紀要は著作権の関係上非公開、または出題元の目次公開ページへのリンクとなっています。）

● タイトルインデックス（アルファベット順）

※日本語タイトルはヘボン式ローマ字表記の順に配列してあります。
※中国語タイトル、韓国語タイトルは日本語読みをヘボン式ローマ字表記の順に配列してあります。
※タイトル冒頭の記号（A, Aa, Titleなど）は無視して配列してあります。

A B C D E F G H I J K L M
N O P Q R S T U V W X Y Z

● タイトルキーワード検索

※キーワードを複数指定する場合は半角スペースで区切って入力してください。

検索実行

● 新着雑誌・紀要

※最近3ヶ月に入力された雑誌・紀要をご覧いただけます。

2008年4月下旬受入分	2008年2月下旬受入分	2008年1月下旬受入分
2008年4月上旬受入分	2008年2月上旬受入分	2008年1月上旬受入分

検索結果

タイトル	公開/非公開
三訂山陽集：上田女子短期大学日本語教育研究会・国語研究部共同編集	公開
埼玉大学留学生センター紀要	公開
産業経済短期大学紀要 → 第22号（1990）より：産経短期大学紀要	公開
産経短期大学紀要 → 第22号（1990）まで：産業経済短期大学紀要	公開
山陽学園短期大学紀要	公開
山陽64集（山陽学園大学国際文化学部）	公開
Beyond language research	公開
世界の日本語教育：日本語教育学会年報	出題元にリンク

世界の日本語教育
▲ INDEX へ

海外日本語教育掲示板 / Bulletin Board

海外日本語教育掲示板「検索結果」
Bulletin Board "Result"

▲検索ページへ戻る
Return to the searching page

全部 / All

検索結果 / Result 1-3 of 3

投稿日 Date	題名 Subject	種別 Category	投稿者 From
2005/08/30	第4回 ヨーロッパ日本語教育シンポジウム	学会・教博会 Teacher's associations	ヨーロッパ日本語 教博会
2005/08/30	第3回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 [ICARTEL/2002 - Computer-Assisted System for Teaching and Learning Japanese]	学会・教博会 Teacher's associations	CARTEL/J
2005/08/30	日本語教育国際「世界の日本語教育」第1・2号の投稿募集 投稿案内 / Japanese-Language Education Annual the Globe Tenth Call Contributions for Papers		国際交流基金日本 語国際センター

検索結果 / Result 1-3 of 3

Copyright 2000 The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa.
No reproduction or republication without written permission.

6 図書館所蔵日本語教科書・ 教材データベース

としょかんしよざう にほんごきょうかしょ
きようざい

当センター図書館にある日本語教材のデータベースです。タイトル、著者、出版者のほか、使用言語、出版国からも検索できます。

LibVision 検索画面

検索開始 クリア

● KWIC検索

タイトル

○ 複合検索

タイトル 中間一致 AND

タイトル 中間一致 AND

タイトル 中間一致

資料種類の限定

図書 雑誌 映像資料 マイクロ資料 録音資料
 静止画資料 コンピュータファイル 地図資料 その他

刊年の限定: (ex. 1969-1995)

KWIC検索簡略表示リスト

- (図書) 毎日の聞きとり50日：初級日本語聴解練習 / 宮城幸枝 (ほか) 共著。-1998。-上
 - (録音資料) 毎日の聞きとり50日：初級日本語聴解練習 / 宮城幸枝 (ほか) 共著。-1998。-上 [対応テープ] 1
 - (録音資料) 毎日の聞きとり50日：初級日本語聴解練習 / 宮城幸枝 (ほか) 共著。-1998。-上 [対応テープ] 2
 - (図書) 毎日の聞きとり50日：初級日本語聴解練習 / 宮城幸枝 (ほか) 共著。-1998。-下
 - (録音資料) 毎日の聞きとり50日：初級日本語聴解練習 / 宮城幸枝 (ほか) 共著。-1998。-下 [対応テープ] 1
 - (録音資料) 毎日の聞きとり50日：初級日本語聴解練習 / 宮城幸枝 (ほか) 共著。-1998。-下 [対応テープ] 2
- 6件ヒットしました。



写真で見る 日本人の生活

「お茶」 ちゃ

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」を使って、初中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は、初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使っています。今回は「お茶」に関する写真パネルを集めてみました。「写真パネルバンク」CD-ROMを使うと、簡単に検索ができます。



日本のお茶 にほん ちゃ

お茶は日本人がよく飲む飲み物です。うすい緑色をしているので「緑茶」と言ったり、「日本茶」と言うこともあります。急須にお茶の葉を入れて、お湯をそそいで、湯飲みにうつして飲みます。砂糖やミルク、スパイスは入れません。



何から作るの？ なに つく

お茶はお茶の木の葉から作ります。紅茶や中国茶と同じ木です。写真はお茶の葉をとっているようすです。5月のはじめごろに、その年のはじめてのお茶をとります。色がきれいでもおもしろく、とてもおいしいです。

現在は、写真のように手でとるのではなく、機械を使うのがふつうです。





どんなときに飲むの？

日本人は食事のときにお茶をよく飲みます。ご飯にお茶をかけて食べる人もいます。お菓子を食べてときにも飲みます。お茶は和菓子（日本の伝統的な菓子・写真：右）によくあいます。

休みたいときにも飲みます。お客さんが来たときに出すことも多いです。



日本食のレストランに行くと、お水ではなくお茶が出てくるのがよくあります。お茶はただです。

最近では、缶やペットボトルに入ったお茶を売っています。コンビニエンスストアや自動販売機（写真：左）で簡単に買うことができます。

茶道（茶の湯）

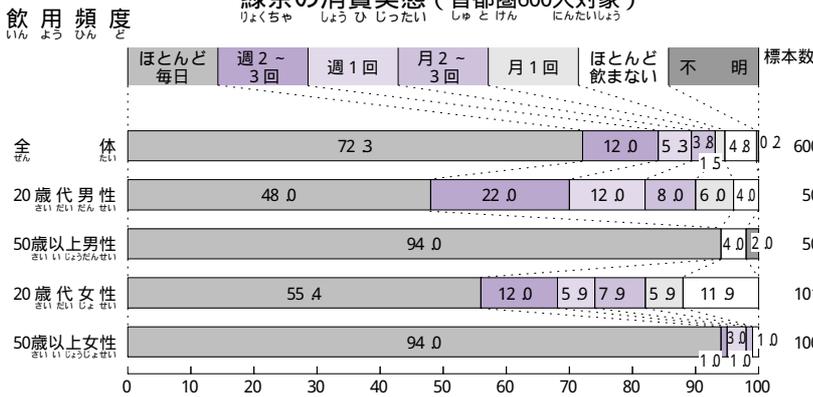
茶道（茶の湯）は、お茶を出してお客さんをもてなす方法です。お茶の入れ方や飲み方、歩き方など、こまかく決められています。茶道の美しさとお客さんをもてなす心は、日本の伝統的な文化の一つです。

写真は、茶道の方法にしたがって、抹茶を入れているようすです。抹茶はお茶の葉の粉とお湯をまぜて作ります。ふつうのお茶よりも濃くて苦いです。



日本人はお茶をどのくらい飲むのか

緑茶の消費実態（首都圏600人対象）



(1992年 緑茶消費実態調査：日本茶業中央会)

注：「お茶」といえばふつうはお茶の葉から作る緑茶のことを指しますが、日本にはお茶の葉を使わないお茶もたくさんあります。例えば、麦で作る麦茶は夏の飲み物として人気があります。また、「お茶でも飲みませんか」「お茶にしましょう」と言うときは、緑茶だけでなく、コーヒーや紅茶、時にはジュースも含んでいます。

日本語の誤用研究

東京大学留学生センター教授 市川保子

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究について情報をおとどけしています。今回のテーマは日本語の誤用研究です。

誤用研究(error analysis)は、学習者がおかす誤りについて、どのような誤りが存在するのか、なぜ誤りをするのか、そして、どのように訂正すればよいかなどを考え、日本語教育、日本語文法理論などに役立てようとする研究です。

1. 誤用とは何か

まず誤用とは何かについて考えてみましょう。

学習者が文を書いたり、話したりするとき、私達は何か間違っていると感ずることがあります。その間違いは、「を」でなくて「に」だとか、「書かない」でなくて「書かない」だとか、聞き手(読み手)がはっきりわかる場合と、何となくおかしいのだけれど、どこがおかしいかはっきり指摘できない場合があります。このように「おかしい」と感ずるものが誤用(error)と呼ばれるものです。

誤用研究では、従来、文法的正確さに関わる誤用が重要視されてきましたが、現在は、伝達、コミュニケーションということを重視し、それらに関わる誤りについても重要視され始めています。

2. 誤用の要因

学習者はなぜ誤用をおかすのでしょうか。第二言語習得研究の立場では、外国語を学習する過程で誤用をおかすのは当然で、それはそのことばを習得するための一つのステップであるという考え方をします。誤用とはとらえずに中間言語(interlanguage)という呼び方をします。

習得研究が学習者の習得過程を追う「たて」の(縦断的)研究であるのに対し、誤用研究はある時点での学習者(多くの場合複数の学習者)の誤用をとらえて研究するもので、「よこ」の(横断的)研究ということができます。

誤用の要因は、母語干渉(interference of mother tongues)による誤りと母語干渉以外の誤りに分けられ

ます。母語干渉以外の誤りは、(1)言語内の誤り：目標言語(target language)の構造そのものが困難であったり、既習の言語規則を未知の構造に適用しようとした際の誤り{類推(analogy)・過剰般化(overgeneralization)}、(2)発達上の誤り、(3)誘発された誤り、(4)伝達方略に基づく誤り、(5)学習方略による誤り、また、単に不注意による誤りもあります。

3. 誤用には段階がある

その文が、絶対におかしいのか、ちょっとおかしいのかというように、誤用には段階(程度)があります。この段階は、二つの方向からとらえることができます。一つは、文法的な正確さ(accuracy)に関わるものと、もう一つは文章・談話としての適切性(adaptability)に関わるものです。

たとえば、(1)「あした東京をいきます。」や、(2)「きのう魚を食べます。」は、だれが見ても文としておかしいですね。(1)の文は「を」を「に」か「へ」にする必要があります。(2)は「食べます」を「食べました」にしなければなりません。では次の文はどうでしょうか。(3)先生に相談したところが、忙しいって言われた。(3)は文法的には誤用とは言えません。引用の「と」の代わりに「って」を使っただけです。しかし、これが作文などの書いたものの中の文であれば、書きことばの中に話しことばが混じることになって、不適切な文となります。また、「ておく」「てみる」「てくれる/てもらう」などは、それがなくても意味が通じる場合が多いですが、あったほうがより自然だという「自然さ」も適切性の中に含まれます。

4. 誤用の判定基準にも段階がある

誤用の段階のもう一つの方向は、間違っているかいないかは、人によって感じ方が違うということです。文法

知識が豊富で、なおかつ文法的誤りに厳しい言語観を持つ人は、そうでない人に比べて、おかしいと感じる度合いが強くなります。一方、文法知識が豊富でも、伝達重視の言語観を持つ人は、文法的誤りより、何をどう伝えるかを重要視します。

したがって、誤りかどうかを判断するときには、一人よりも複数の判断者がいたほうが客観的な判断ができることとなります。

5. 誤用の種類

誤用の種類としては、「1文レベル(sentence level)の誤用か談話レベル(discourse level)の誤用か」「書きことばか話しことばか」が一番大きな問題となります。

「私が太っている。」はその文だけを聞くとおかしい感じがします。「が」ではなく「は」にして「私は太っている」にしたいところです。しかし、「兄弟の中でだれが太ってる」というような話の流れでは、「(兄ではなく)私が太っている」という状況もあり得ます。「は」と「が」の問題は1文の中だけでは間違いか否かが判断できず、文章・談話の中で判断しなければなりません。

次に誤用そのものの分類について説明します。誤用は大きく、「(1)脱落(omission) (2)付加(addition) (3)誤形成(misformation) (4)混同(alternating form) (5)位置(misordering) (6)その他」の6種類に分類できます。

(1)脱落は、当該項目を使用しなければいけないのに使用していない誤用{例:机の上に映画のチケットφ(が)2枚置いてある(「φ」は不要の意味)}、(2)付加は、脱落とは逆に、使用してはいけないところに使用している誤用{例:兄弟は8人が(φ)いて、シアトルやシカゴに住んでいる}、(3)誤形成は、活用、接続の仕方などの形態的な誤り{例:会いて(会って)ください}、(4)混同は、助詞「は」と「が」、ムード「ている」「である」、自動詞・他動詞などのように、他の項目との混乱による誤り、(5)位置は、その項目の文中での位置がおかしい誤り{例:ぜひ(φ)これだけはあなたにφ(ぜひ)見せてあげたい}です。

6. 訂正(correction)ということ

誤用研究に関連して、その誤りをどのように訂正するかという問題が出てきます。どのような基準で、そして、どの程度訂正するのか、いつ訂正するのが問題となります。これは3で誤用には段階があると説明しましたが、同じように訂正にも段階があります。

誤りの種類・性質をはじめ、授業全体の目標、個々の

練習の目標、時間の制約、誤りをおかした学習者の性格・実力・年齢などが訂正に関係してきます。

文法的正確さを問題にする場合は、その訂正も厳しくし、コミュニケーションを大切に考えるときは、多少の文法的正確さは無視されるべきでしょう。

訂正をいつ行うかも難しい問題です。作文など書いたものも時間が経ってしまうと、作成者の発話意図があまりにまいになる場合があります。作成後できるだけ速やかに訂正を行うのが望ましいですが、会話などでは、逐一訂正するのではなくて、ある程度の発話ののちにまとめて行うほうが効果があるでしょう。

7. 誤用研究の目的

誤用研究は何に役に立つかという、誤用研究の目的は大きく二つあります。一つは、第二言語習得理論や日本語文法研究として専門化される、理論的アプローチに向かう方向で、もう一つは、日本語教育への貢献です。後者は、誤用を分析評価し、それをを用いて(資料の直接的利用)、教材やテストを作成したり、教授法に応用したりすることができます。最近の辞書の中には、このような言い方はしないと、学習者がおかしがちな誤用の例を示しているものもありますが、それなどは誤用研究の成果を生かしたものと言えるでしょう。

基本的な参考文献

- 市川保子(1997)『日本語誤用例文小辞典』凡人社
市川保子(2000)『続・日本語誤用例文小辞典』凡人社
小篠敏明(1983)『英語の誤答分析』大修館書店
Corder, S.P.(1967)“The Significance of Learners' Errors.” IRAL, 5
——(1971)“Idiosyncratic Dialects and Error Analysis.” IRAL, 9, 2
Dulay et al; Krashen, S.(1982)『Language Two.』Oxford: Oxford University Press
Etherton, A.R.B.(1977)“Error Analysis: Problems and Procedures”, ELTJ, 32
Johansson, Sting(1975) Papers in Contrastive Linguistics and Language Testing. Lund: W.K.Gleertup

インターネットで調べられるもの

「寺村誤用データ」「日本語学習者の作文コーパス」
<http://cookie.lang.nagoya-u.ac.jp/pub/>



ではありませんが、決まったルールがあります。会話を進める力を伸ばすためには、教室でこのような会話のルールを指導する必要があるでしょう。

授業での応用

まず、学生に日本語の会話の流れがどんなものなのか、例を使って知ってもらう必要があります。

① 教科書のテープを利用する

会話例2 でも紹介しましたが、最近の教科書の会話文は、自然な会話の流れを意識して作られています。そこで、教科書の会話テープを聞くときに、学生に次のようなことを質問するといいいでしょう。

- ・ どうやって会話を始めているか。
- ・ 会話を続けるためにどんな言葉を使っているか。
- ・ どうやって会話を終わっているか

さらに、次のような点も、会話の進め方を考えるときに大切です。

- ・ どのような状況か。
- ・ 会話の参加者はどういう関係か（はじめて会う人が、以前から知っている人が、目上の人か、など）
- ・ どのような目的のある会話なのか

このような質問は、学生が会話の流れを理解しているかどうかを確認するために聞くのですから、母語で行うといいいでしょう。中級以上の学生には、日本のドラマや映画などの会話を見せて、上のような質問をすることもできます。

さらに、学生自身が話す活動をするときに、会話の流れを作る練習をさせることも必要です。

② 文型練習を会話練習にする

初級で学習する基本的な文型の練習をする場合にも、できるだけ自然な会話に近づけるように工夫をすといいいでしょう。例えば、時間の言い方、時間の聞き方を勉強したら、文型練習のときに、会話の始めや終わりの表現、あいづちなどを入れれば、実際の会話に近づきます。

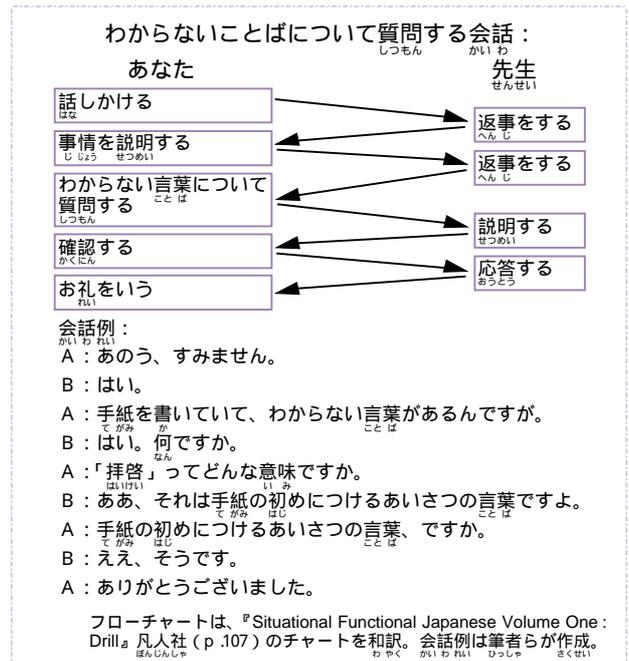
会話例3

A: すみません。今、何時ですか？
B: はい、ええと、今5時半です。
A: そうですか。ありがとうございます。

③ 会話のフローチャートを使う

会話の流れがある程度はつきり表せる場合には、会話の流れをフローチャートの形で表して、学生に進め方を

確認させることもできます。



④ ロールプレイでチェックする

学生がロールプレイで自由に会話を作るとき、会話の流れを意識するように指導します。そして、教師がロールプレイを評価するときに、その点ができているかどうかチェックするといいいでしょう。そうすれば、学生は、会話の流れを作ることが大切であると考えるようになるでしょう。

このように教室で練習をしておけば、実際に日本人と話すときにもスムーズに会話ができるようになります。

さらに、教室を離れても、学生自身が日本人同士の会話を観察しながら、会話の流れを学ぶ力が身に付くでしょう。

会話のしくみについて、ここではあまり詳しく説明することができませんでした。もっとよく知りたい方は、参考文献の『日本語教育と会話分析』などを参照してください。

次回も今回に引き続き、話すことの指導に焦点を当てます。次回は会話のストラテジーの指導法を紹介します。

参考文献

- 谷口すみ子、萬浪絵理、稲子あゆみ、萩原弘毅 (1995) 『日本語入門はじめのいっぽ』スリーエーネットワーク
- 筑波ランゲージグループ (1992) 『Situational Functional Japanese Volume One: Drill』凡人社
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- Dornyei, Z. & Thurrel, S. (1992) Conversation And Dialogues in Action. Prentice Hall

* 今回から、このコーナーの担当者は、有馬淳一、古川嘉子（日本語国際センター専任講師）になりました。

読者の皆さんのアイデア、成功例、失敗談などをお寄せください。



「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

- データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

コミュニケーションを重視した、『新基礎』の続編
『新日本語の中級』



データ

- 1 財海外技術者研修協会 (AOTS)
- 2 スリーエーネットワーク 〒101 0064
- 東京都千代田区猿樂町2 6 3 (松栄ビル) TEL 03 3292 5751 FAX 03 3292 6195
- 3 2000年9月20日
- 4 4
- 88319 161 3
- 5 B 5判・308ページ、別冊解答集61ページ
- 6 2 835円 別売CD(3枚組)
- 4 4 88319 163 X
- 6 4 305円

『新日本語の基礎』の続編が登場

『新日本語の基礎』I、IIは、初級向けの代表的な教科書として、国内の日本語学校や海外の日本語教育現場で広く使われています。この『新日本語の中級』はその続編となる教科書で、初級レベルを終えた人が、その知識を使いながら、日本語でコミュニケーションできる能力を身につけることを目的としています。

全体は機能シラバスによって構成されていて、「尋ねる・確かめる」「電話で連絡する」「頼む」「許可をもらう」「誘う・断る」など20の課からなっています。

それぞれの課は、「学習目標」「学習する前に」「学習項目」「会話」「読もう」「会話の練習」「読もうの練習」「聞こう」という内容に分かれています。

日本で出会うような場面を考慮

この本では、外国人が日本で出会うような場面が考慮され、その中で実際に日本語を使うことを目標にしています。この教科書の主な内容となる「会話」と「読もう」では、こうした場面で日本語を話したり読んだりできるようになっています。

例えば「会話」では、会社や駅、店やレストランなどいろいろな場面での会話が示されています。「読もう」では、街の中で見かける表示、手紙、掲示板のお知らせなど、やはり日常生活で必要とな

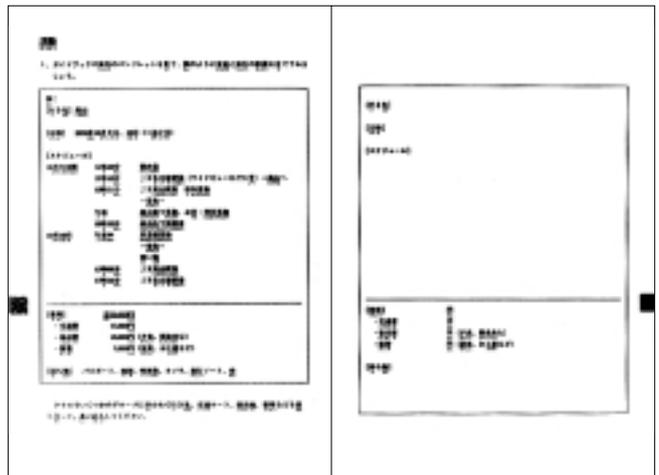
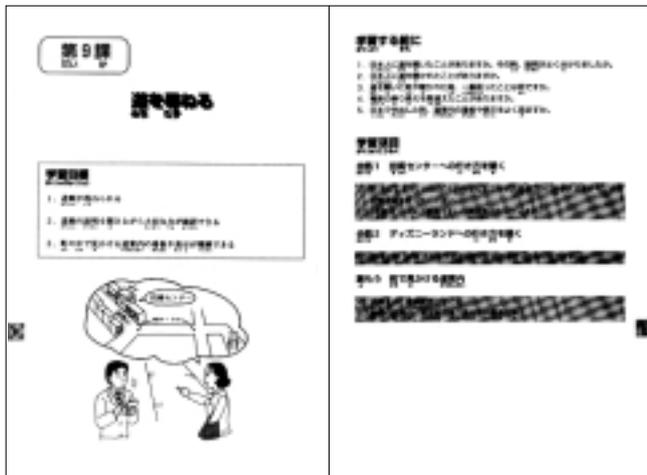
る様々なものについて、読む練習をします。また「読もう」ではこれと並んで、日本事情についてディスカッションの材料となるような文章もあります。

コミュニケーションを重視した練習

「練習」では、これらの「会話」と「読もう」について、形を正確に身につけるための基本練習をします。

そして、これに加えて「活動」という、コミュニケーションを重視したアクティビティがあります。これはロールプレイやインタビュー、タスク練習、作文など、学習者が自分で使う日本語を自由に考えながら目的を達成していくタイプの応用練習です。これによって、実際のコミュニケーションの中で日本語を使う練習ができます。

このような練習は『新基礎』には見られなかったもので、今回の『中級』におけるコミュニケーション重視の姿勢が現れていると言えるでしょう。



日本事情を学びながら、日本語を総合的に学べる

にほんじじょう まな にほんご そうごうてき まな

『季節で学ぶ日本語』

きせつ まな にほんご



データ

石塚京子、市瀬俊介、寺田和子、堀越和男、増井世紀子、村澤慶昭・東京国際大学付属日本語学校 発行:アルク(〒168 8611 東京都杉並区永福2 54 12/TEL.03 3323 0026 FAX.03 3323 2021) 2000年12月15日 44 7574 0391 7 B 5判124ページ 1,890円 別売テープ(1巻) 44 7574 0392 5 1,260円

日本の季節の代表的な風物詩に着目

『季節で学ぶ日本語』は、初級レベルの教科書で、内容は、1999年4月から1年間『日本語ジャーナル』に連載されたものです。今回、単行本になるにあたり、「タスク」が、新たに加われました。

この教科書の最も特徴的な点は、文法や機能ではなく、日本の12ヶ月が課の切り口になっていることです。日本の美しい風物詩の写真やかわいいイラストは、学習者に内容に対する興味を湧かせ、勉強したいという気持ちにさせるでしょう。

また、この本の第二の特徴は、日本事情を勉強できるだけでなく、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を総合的に伸ばせる構成になっているという点です。



P. 17

日本人へのインタビュー タスクを設定

課の構成は以下のとおりです。まず、その月を代表する行事や季節の風物詩がキーワードとして提示されます。そして、それに関係の深い歌や詩、短歌などが、鮮やかで情緒あふれる写真とともに紹介されています(英語訳つき)。例えば、4月のキーワードは、桜と花見です。

次に、キーワードに関わりのある絵を見て語彙をチェックしたり、質問に答えたりするコーナーがあります。これは、次の会話の聞き取りのための準備になっています。

それから、テープで会話を聞いた後、この会話の中で使われている便利な表現を練習するようになっていきます。また、上下関係や親疎関係などによってどのようにその表現が変わるのかも説明されています。

次に、課によって聴解、または読解の問題があります。聴解の内容は、インタビューやスピーチ、統計や絵の説明などの聞き取りが多く、読解は、文章の並べ替えやことわざと状況を組み合わせる活動などがあります。

最後に、図表や文章を読んでまとめたり、日本人に日本人の宗教観や老後の問題、環境に対する意識を尋ねるアンケートやインタビューのタスクがあります。このタスクは、日本語を実際に使う応用練習であると同時に、学習者が日本の文化や習慣の背後にある日本人の考え方について、より深く理解できるように設定されています。

自主学習できる

この本は、巻末に問題の解答と会話テープのスク립トがついており、自主学習ができるようになっています。また、クラスでも使用できます。

ただ、クラスで用いる場合、次の点に気をつけるといいでしょう。一つは、文化に関わる教材によくある問題ですが、答えが一つではない場合もあります。たとえば、結婚式のご祝儀の金額に関する問題では、地方によって適切な額が違う場合もありますので、気をつけましょう。もう一点は、各課で紹介されている有名な歌です。付属のテープには歌は入っていませんので、教師が学習者にそれらの歌を聞かせてあげられると、学習者はもっと日本の文化に親しめ、楽しめるでしょう。



P. 20



P. 48

p.18~21は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

磯村一弘、小玉安恵、柴原智代、内藤満、向井園子、藤長かおる(執筆順)

いそむらかずひろ こたまやすえ しはらちともよ ないとうみつる むかいそのこ ふじなが



日本文化を学ぶマルチメディア教材 『StarFestival』

データ

1 著者・製作者:宮川繁2 StarFestival, Inc.(P.O. Box 401025 Cambridge, MA 02140 0011 / TEL .1 617 216 4714, www.starfestival.com, info@starfestival.com) 3 2000年4 CD ROM Cross Platform Version 1.0 1 929724 00 4 Mac only Version 1.1 1 929724 01 2 5 CD ROM ビデオ40分、写真300点 Student Work Book 各約30ページ、Teacher's Guide 約350ページ 6 CD ROM US \$ 79.95、Student Work Book 各グレード(5冊1セット) US \$ 50.00、Teacher's Guide US \$ 40.00

『StarFestival』は、幼稚園から高校までの社会科、地理の教材として米国で開発されたマルチメディア教材です。この教材は、CD ROMと、それに付随する

印刷教材からなっています。使用言語は、CD ROMの中の生のインタビュー部分以外は、全て英語です。

この教材の内容は、10歳で渡米、米国で生活する日本人の現在の主人公が、自己のアイデンティティーを求めて、30年後、故郷の平塚へ戻るという設定です。CD ROM教材は、日本の家、商店、魚市場、タクシー、バス、駅、七夕祭など、主人公が訪れる20の「サイト(site)」から構成されています。

各々の「サイト」には、関連したビデオ、文化事情などの解説、写真など様々な素材が盛り込まれており、日本文化や日本事情の学習に使えます。また、いくつかの「サイト」には、町の人と主人公との生のインタビューのビデオがあるので、中、上級の日本語学習に利用できます。この部分には、英語訳、かな、漢字かな混じりの表示もあります。このほかに、ホームページ(データ参照)に、

このビデオに関連した双方向性の日本語学習用副教材「Tanabata」があり、学習用に使えます。

印刷教材には、教師用ガイドと、CD ROMと一緒に使うワークブックがあります。後者は、小学校高学年用と中学生用があり、それぞれ、「食べ物・衣類」「家・趣味」「七夕祭」などのテーマにより5分冊になっています。英語を使って学ぶ地域では、日本文化紹介、異文化理解の授業に、CD ROMといっしょに使うことができます。



12種類の外国語教授法を解説した

『日本語教授法ワークショップ』

データ

1 編著者:鎌田修、川口義一、鈴木 2 凡人社 〒102 0093 東京都千代田区平河町1 3 13 菱進平河町ビル 1階 / TEL .03 3263 3959 FAX .03 3470 2129 2000年9月30日(増補版) 4 89358 351 4 5 A 5判・281ページ 6 2,730円

この本は、オーディオ・リンガル・メソッドからコミュニカティブ・アプローチまで12の外国語教授法(図「目次」参照)をとりあげて、その教授法が生まれた背景、理論、日本語教育での実践方法を紹介したものです。教授法の一般的な解説書とちがいで、それぞれの教授法について、日本語教育で実践したことがある人が説明しているのが特徴です。ですから、実際の日本語の授業で、どんな

活動をするか、その活動の目的はなにか、そのためにどんな教材を使うか、学習者と接するときになにに気をつけるのかなどが、各教授法について具体的にわかりやすくまとめられています。また、さらに深く知りたい人のために、参考文献も充実しています。

この本のもうひとつの特色は、本で紹介されている教授法について、授業を録画したビデオ(別売り)があることです。もともとこの本は、いろいろな教授法を体験する目的で実施された「日本語教授法ワークショップ」での模擬授業をもとに作られたものです。ですから、本の説明とビデオの授業の両方を見れば、それぞれの教授法がどんなものかが頭に描きやすくなるでしょう。

この本は、いろいろな教授法についての知識を広く身につけたいという人にお

すすめの参考書です。毎日の教室活動でやっていることの意味を考え直してみたい人、言葉はどう学ぶかについて興味がある人にもおもしろい1冊です。また、自分の授業で使える教方を見つけたという人にも、アイデアを提供してくれることでしょう。

*本書は1996年発行のものに「コミュニカティブ・アプローチ」が加わった増補版です。



図.「目次」

日本語教育関係の論文を探す

にほんごきょういくかんけい ろんぶん さが

(1) 文献情報を探す

ぶんげんじょうほう さが

ある研究課題やテーマについて参考文献(図書、雑誌

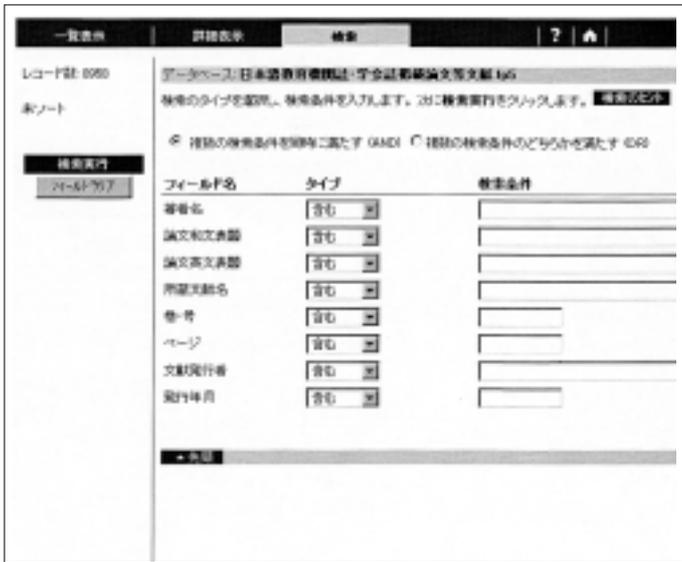
けんきゅう課題 や テーマ について 参考文献 (図書、雑誌

論文)を探したい場合には次のようなデータベースが便利です。

国立国語研究所「日本語教育機関誌・学会誌掲載論文等文献データベース」

http://202.245.103.41:591/

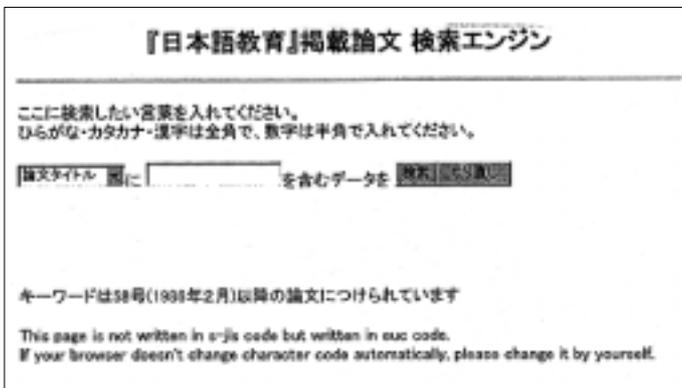
国立国語研究所日本語教育センターが収集した日本語教育関連の研究論文(雑誌論文)のデータベース。文献のタイトル、著者名、雑誌名などで検索ができます。また、同じアドレスの「文部省科学研究費補助金研究課題データベース」からは、最近の研究動向をうかがうことができます。



日本語教育学会「日本語教育」掲載論文検索エンジン

http://www.soc.nacsis.ac.jp/nkg/journal/j-search.htm

学会誌『日本語教育』に掲載された論文がタイトルから検索できます。また、「既刊の掲載論文一覧」のページともリンクしています。



この回答は、日本語国際センター図書館の加藤久枝専任司書からの情報を担当者がまとめたものです。このコーナーでとりあげてほしい質問を募集しています。

このコーナーの担当者：藤長かおる (Kaoru_Fujinaga@jpf.go.jp 日本語国際センター専任講師)

検索結果

論文タイトルに「会話」を含むデータは11件ありました。「掲載論文・著者名一覧」では、号ごとの目次をご覧いただけます。

内容

中絶会誌の掲載、高島洋二、37号(1979.3)
ブラジルにおける日本語教育の現状と展望・児童向け会話テキスト作成について、日本文学連盟日本語部
トルコ人のための日本語会話本「GÜLAY JAPONCA」、エルドアン・奥理子、48号(1982.10)
【修士論文要約】会話引渡形式、オリーブ・ゼンマン、59号(1986.3)
会話教育のシラバス作りに向けて、若口すみ子、68号(1989.7)、会話/コミュニケーション能力/会話の注
意中日本語教育中級レベルにおける会話の位置付け、及びその指導法、中村妙子・岩本純生子・星野高子、
関西と英語ライオン大学における上級者のための会話、榎川穂波、71号(1990.3)、発音/語彙/多様化
電話による会話教師の研究、岡本純生子、72号(1990.11)、会話教師/語法分析/Closing Section/関

論文タイトルでの検索はできませんが、雑誌ごとにどんな論文が掲載されたかを調べたいときは、次のデータベースが便利です。

NACSIS「学術雑誌目次速報データベース」

http://www.nacsis.ac.jp/sokuho/index.html

日本国内の大学・研究機関発行の学術雑誌の目次情報のデータベースです。××大学が出している「○○」という雑誌に掲載された論文を知りたいというときには便利ですが、どの雑誌を見てよいかわからない場合は不向きです。

国際交流基金日本語国際センター図書館「所蔵雑誌・紀要目次ページデータベース」

http://www.jpf.go.jp/j/urawa/_library/indexsearch/

日本語国際センターの図書館が所蔵している言語学、日本語学、日本語教育関係の雑誌・紀要類(和書、洋書)の目次ページをホームページ上で閲覧(PDFファイル)できるようにしたものです。日本語教育関係の雑誌を探したい人には便利です。

(2) 雑誌の所在を探す

自分が読みたい論文のタイトルとその論文が収録されている雑誌名がわかれば、次のデータベースでその雑誌の所在を調べることができます。

NACSIS Webcat 総合目録データベースWWW検索サービス

http://webcat.nacsis.ac.jp/webcat.html

国内の大学・研究機関の図書館が所蔵している資料(図書、雑誌)のデータベース。見たい資料のタイトル等から所蔵する図書館を探すことができます。

(3) 文献のコピーを手に入れる。

文献複写依頼は、資料を持っている図書館に直接連絡して依頼するのではなく、みなさんが普段使っている図書館を通じて行うのが一般的です(くわしくは、図書館の司書の人にきいてください)。

ただし、国立国会図書館が所蔵している雑誌については、個人でも申し込める有料の国際電子複写サービス(利用規定はhttp://www.ndl.go.jp/e/riyou/inter_photo.html 参照)があります。

NEWS NEWS NEWS ニュース

2000年度日本語能力試験の結果について

昨年12月3日(日)に国際交流基金と(財)日本国際教育協会の共催で実施された、2000年度日本語能力試験の結果がまとまりました。試験は日本国外35の国・地域の82都市、日本国内6地域で実施され、日本国外で160,235人(前年度比約21%増)、日本国内で40,786人(同約19%増)が受験しました。

各級の受験者数、認定者数、平均点は、別表のとおりです。

級別	受験者数(人)		認定者数(人)		認定率(%) B/A	平均点 (400点満点)
	A	B	A	B		
国 外	1級	34,286	14,316	41.8	264.4	
	2級	44,438	16,926	38.1	221.8	
	3級	48,528	15,982	32.9	213.1	
	4級	32,983	14,026	42.5	226.4	
	小計	160,235	61,250	38.2	-	
国 内	1級	25,711	12,976	50.5	272.1	
	2級	8,142	3,954	48.6	238.9	
	3級	4,534	2,623	57.9	252.8	
	4級	2,399	1,813	75.6	274.4	
	小計	40,786	21,366	52.4	-	
合計	201,021	82,616	41.1	-		

なお、2001年度の試験は12月2日(日)に実施されることになりました。詳細は、7月頃に下記までお問い合わせ下さい。

日本国外の実施について：

国際交流基金関西国際センター試験課
〒598 0093 大阪府泉南郡田尻町
りんくうポート北3 14

編集部から

年末年始に、「日本語教育通信」編集部あてに読者から、カラフルなお正月のカードをいただきました。どうもありがとうございました。電子メールによる年賀状も届き、インターネットの広がりを感じました。通信へのご意見、ご感想の他にも、学校の様子など教えていただければ、「読者から」のコーナーで紹介できます。教室の様子などを写した写真も歓迎します。

今回の特集では、日本語国際センターのホームページを取り上げました。掲示板は利用者によって充実させていくページですので、ご協力をお願いします。海外

*この欄にふさわしい情報やニュースがありましたら、下記までお寄せください。

国際交流基金日本語国際センター情報交流課

〒336 0002 埼玉県さいたま市北浦和5 6 36

Research and Information Division, The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa, 6-36 Kita-Urawa 5-chome, Saitama-shi, Saitama 336-0002, Japan

Tel : +81 724 90 2603

Fax : +81 724 90 2803

E Mail : jlptinfo@jpf.go.jp

ホームページ :

<http://www.ijnet.or.jp/jpf/>

[jlpt/contents/home.html](http://www.ijnet.or.jp/jpf/jlpt/contents/home.html)

日本国内の実施について：

財団法人日本国際教育協会

事業部試験課

〒153 8503 東京都目黒区駒場4 5 29

Tel : +81 3 5454 5215

+81 3 5454 5235

ホームページ :

<http://www.aiej.or.jp/>

[index2.html](http://www.aiej.or.jp/index2.html)

第6回海外日本語教育研究会「韓国の高校における日本語教育」開催

平成13年2月17日(土) 国際交流基金日本語国際センターで第6回海外日本語教育研究会「韓国の高校における日本語教育」が行われました。

研究会では、第1部で韓国の高校における日本語教育の現状が報告され、大学入試との関わりや2002年から施行される第7次教育課程の内容とともに、ソウル市内の高校の授業風景を映したビデオが紹介されました。第2部では、「高校の日本語教師を対象とした現職者研修」をテーマに、ソウル日本語教育研究会の文貞善さん、在韓国日本大使館公報文化院の星亨さん(国際交流基金派遣専門家)当センター専任講師がそれぞれの組織で行っている研修の概要と課題を発表しました。最後に、今後とも各組織の特色を生かした研修や活動を進めると同時に、情報交換や連携をより深めていくことが提案されました。

当日は100名以上の出席者があり、IT化が進んだ授業の様子や多様な教師研修プログラムなど今まで日本国内ではあまり紹介されることがなかった情報に熱心に耳を傾けていました。

この研究会の資料及び次回のお知らせは当センターのホームページに掲載されますので、ご興味をお持ちの方はぜひご覧ください。

日本語国際センターの2001年度海外日本語教師研修

現在、国際交流基金日本語国際センターでは、海外日本語教師長期研修生(58名)及び5月開始の海外日本語教師短期研修生(47名)が研修を受けています。2001年度に実施する研修は、次の12研修(招へい者480名)です。

開始月：研修名 [期間]

5月：海外日本語教師短期研修(春期) [2カ月]

7月：海外日本語教師短期研修(夏期) [2カ月] 韓国高校日本語教師研修 [2カ月] 北米・英国初中等日本語教師研修 [3週間]

9月：海外日本語教師長期研修(9月コース) [6カ月] 中国大学日本語教師研修 [2カ月]

10月：外国人日本語教育指導者養成プログラム [1年]

11月：在外邦人日本語教師研修 [1カ月]

1月：海外日本語教師短期研修(冬期) [2カ月] 中国中等日本語教師研修 [2カ月] オーストラリア・ニュージーランド初中等日本語教師研修 [3週間]

3月：海外日本語教師長期研修(3月コース) [6カ月]

『日本語教育通信』 第40号

2001年5月発行

発行・編集 国際交流基金
日本語国際センター 情報交流課
〒336 0002 埼玉県さいたま市北浦和5 6 36
The Japan Foundation
Japanese-Language Institute, Urawa
(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Saitama-shi,
Saitama 336-0002, Japan)
TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588
E-Mail jfnckt@jpf.go.jp
編集協力
財団法人 国際文化交流推進協会
Assoc. ACE Japan (Japan Association for
Cultural Exchange)
© 2001 by The Japan Foundation

(表紙イラスト：村井宗二) 古紙100%再生紙使用